

degree 2 の p 進 Siegel-Eisenstein 級数

竹森 翔*

京都大学大学院理学研究科

本稿では、城崎新人セミナーで行った筆者の講演内容や、それ以降に得られた結果について簡単に述べます。

1 導入

p 進 Eisenstein 級数は、1 変数の保型形式の場合には、Serre の p 進保型形式の理論に現れる ([Se]). 桂田氏と長岡氏は、degree 2, level 1 の Siegel-Eisenstein 級数のある p 進極限が degree 2, level p の genus theta 級数や twist された Eisenstein 級数の線形結合であらわされることを示した ([Kat-Na]). (ここで twist された Eisenstein 級数とは 2 節で定義される Eisenstein 級数に $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ p & 0 \end{pmatrix}$ を作用させたものである。) 水野氏は、[Kat-Na] に現れる Eisenstein 級数の p 進極限を level p の Siegel-Eisenstein 級数を使って表した。その証明には level p の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式が使われる。level が 1 でないときの Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式は最近までは知られていなかったが、水野氏が [Mi1] で明示公式を得ている。その証明には Jacobi-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式と Maass lift が使われる。また、軍司氏は、level p の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の Euler 因子 (Siegel series) を直接計算した ([Gu]).

degree 2 のとき、すべての level で Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数を計算し、桂田氏と長岡氏の結果 (Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限が Siegel 保型形式になるという結果) を level や指標が一般の場合に拡張したのでそれを紹介する (定理 5.3). (ただし、weight は 3 より大きいときのときしか考えていない。) また、degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な保型形式の族が存在するという事も示した (定理 5.2).

2 Siegel 保型形式

g を正の整数とし、 $\mathfrak{H}_g = \{z \in \text{Sym}_g(\mathbb{C}) \mid \text{Im}(z) > 0\}$ を degree g の Siegel 上半空間とする。ここで、 $x \in \text{Sym}_g(\mathbb{R})$ に対し、 $x > 0, x \geq 0$ はそれぞれ、 x が正定値、半正定値であるということを意味する。 $\text{Sp}_g(\mathbb{Z})$ を

$$\text{Sp}_g(\mathbb{Z}) = \left\{ \alpha = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \text{GL}_{2g}(\mathbb{Z}) \mid a, b, c, d \in M_g(\mathbb{Z}), {}^t \alpha \begin{pmatrix} 0_g & -1_g \\ 1_g & 0_g \end{pmatrix} \alpha = \begin{pmatrix} 0_g & -1_g \\ 1_g & 0_g \end{pmatrix} \right\},$$

と置き、 N を正の整数とすると、 $\text{Sp}_g(\mathbb{Z})$ の合同部分群 $\Gamma_0^{(g)}(N)$ を

$$\Gamma_0^{(g)}(N) = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \text{Sp}_g(\mathbb{Z}) \mid c \equiv 0 \pmod{N} \right\}$$

* takemori@math.kyoto-u.ac.jp

と置く. ψ を mod N の Dirichlet 指標とすると degree g , weight k , 指標 ψ の Siegel 保型形式全体のなす空間を $M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ と置く. すなわち, \mathfrak{H}_g 上の正則関数 f で次を満たすもの全体のなす空間とする.

$$\text{すべての } \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \Gamma_0(N) \text{ に対し, } f(\alpha \cdot z) = \psi(\det(d)) \det(cz + d)^k f(z), \quad z \in \mathfrak{H}_g.$$

ただし $g = 1$ の場合は, さらに cusp 条件も加える.

$M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ の任意の元 f は次の様な Fourier 級数展開をもつ.

$$f(z) = \sum_{0 \leq h \in \text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(h, f) \mathbf{e}(hz).$$

ここで, 正方行列 X に対し $\exp(2\pi i \text{Tr}(X))$ を $\mathbf{e}(X)$ で表している. また, $\text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})$ は次のように半整数行列の全体がなす集合である.

$$\text{Sym}_g^*(\mathbb{Z}) = \{T = (t_{ij}) \in \text{Sym}_g(\mathbb{Q}) \mid 2t_{ij} \in \mathbb{Z}, t_{ii} \in \mathbb{Z}\}.$$

Γ_∞ を

$$\Gamma_\infty = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \text{Sym}_g(\mathbb{Z}) \mid c = 0 \right\},$$

と置く.

$k \in \mathbb{Z}$ とし, $\psi(-1) = (-1)^k$ とする, $z = x + iy$, $x, y \in \text{Sym}_g(\mathbb{R})$ とするとき, degree g の Siegel-Eisenstein 級数 $E_{k, \psi}^{(g)}(z)$ を次で定める.

$$E_{k, \psi}^{(g)}(z) = \sum_{\begin{pmatrix} * & * \\ c & d \end{pmatrix} \in \Gamma_\infty \setminus \Gamma_0(N)} \psi^{-1}(\det(d)) \det(cz + d)^{-k}.$$

右辺は $k > g + 1$ のとき, 絶対収束し, $M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ の元を定める.

3 degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式

Siegel-Eisenstein 級数 $E_{k, \psi}^{(g)}(z)$ の Fourier 係数 $a(h, E_{k, \psi}^{(g)}(z))$ は, $N = 1$ で g が一般の場合には, 桂田によって ([Kat]), N が奇数かつ square-free で, degree が $g = 2$ の場合には, 水野によって ([Mi1]) によって明示的に計算されている. また, degree 2 のときは, 軍司によって, $a(h, E_{k, \psi}^{(2)})$ の奇素数 level での Euler 因子 (Siegel series) が明示的に計算されている ([Gu]).

この節では, degree が $g = 2$ のときに, 一般の level で $E_{k, \psi}^{(2)}$ の Fourier 係数の明示公式について述べる. 計算方法は, [Gu] を参考にした.

$h \in \text{Sym}_2^{(*)}(\mathbb{Z})$ かつ $\text{rank } h \leq 1$ のとき, $uh^t u = \begin{pmatrix} m & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$, $m \geq 0$ となるような $u \in \text{GL}_2(\mathbb{Z})$ が存在する. このとき,

$$a(h, E_{k, \psi}^{(2)}) = a\left(\begin{pmatrix} m & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, E_{k, \psi}^{(2)}\right) = a(m, E_{k, \psi}^{(1)})$$

が成立する. 1つ目の等号は, 保型性から, 2つ目の等号は, Siegel operator Φ について, $\Phi E_{k, \psi}^{(2)} = E_{k, \psi}^{(1)}$ であることからわかる. 1変数の Eisenstein 級数の Fourier 係数は明示的に知られているので, $\text{rank } h = 2$ のときの Fourier 係数 $a(h, E_{k, \psi}^{(2)})$ について述べる.

定理 3.1. ψ を mod N の原始指標とし, $0 < h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ を正定値半整数対称行列とする. $k > 3$ のとき, $a(h, E_{k, \psi}^{(2)})$ について次が成立する.

(1) h が次の条件を満たすとき $a(h, E_{k, \psi}^{(2)}) = 0$ である.

i. $\text{ord}_2(N) = 2$ または, $\text{ord}_2(N) > 3$ のとき,

$$h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z}) \setminus \text{Sym}_2(\mathbb{Z}).$$

ii. $\text{ord}_2(N) = 3$ のとき, $uh^t u$ が次のいずれかの行列と等しくなるような $u \in \text{GL}_2(\mathbb{Z}_2)$ が存在する.

$$\begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}, \quad 2^m \begin{pmatrix} 0 & 1/2 \\ 1/2 & 0 \end{pmatrix} \quad \text{or} \quad 2^m \begin{pmatrix} 1 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{pmatrix},$$

ここで, $\alpha, \beta \in \mathbb{Z}_2^\times$ であり $m \in \{0, 1\}$ である.

(2) h が (1) の条件を満たさないとき, $a(h, E_{k,\psi}^{(2)})$ は次のようになる.

$$a(h, E_{k,\psi}^{(2)}) = 2 \frac{L^{(N)}(2-k, \chi_h \psi)}{L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2)} \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q|N}} F_q(h; \psi(q)q^{k-3}) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q|N}} c_q(h, \psi; q^{k-3}).$$

記号の説明をする.

$0 < h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ に対し, $D(h) = -\det(2h)$ と置くと $D_0(h)$ を 2 次体 $\mathbb{Q}(\sqrt{D(h)})$ の判別式とし, $f(h)$ を

$$D(h) = D_0(h) f(h)^2$$

となるような正の整数とする. 上の χ_h は 2 次体 $\mathbb{Q}(\sqrt{D(h)})$ に付随する導手 $|D_0(h)|$ の 2 次指標である. α_1, α を

$$\alpha_1 = \text{ord}_q(\varepsilon(h)), \quad \alpha = \text{ord}_q(f(h)),$$

と定める. $F_q(h; T)$ は次のように定数項 1 で次数が 2α の \mathbb{Z} 係数多項式である.

$$F_q(h; T) = \sum_{i=0}^{\alpha_1} (q^2 T)^i \left\{ \sum_{j=0}^{\alpha-i} (q^3 T^2)^j - \chi_h(p)(qT) \sum_{j=0}^{\alpha-i-1} (q^3 T^2)^j \right\}. \quad (3.1)$$

また, $c_q(h, \psi; T)$ は次で定められる有理式である.

$$c_q(h, \psi; T) = \begin{cases} 1 & \psi_q^2 \neq 1, \\ 1 + q^{-1}(1-q) \frac{1 - \chi_h \bar{\psi}(q) q^{-2} T^{-1}}{(1 - \bar{\psi}^2(q) q^{-4} T^{-2})(1 - \chi_h \psi(q) q T)} (q^3 \psi^2(q) T^2)^{\beta_q - n_q + 1} & \psi_q^2 = 1, \end{cases}$$

ここで ψ_q は導手が q の冪の Dirichlet 指標で, $\psi = \prod_{q|N} \psi_q$ となるようなものであり, n_q と $\beta_q = \beta_q(h)$ は次のように定義される.

$$n_q = \text{ord}_q(\mathfrak{f}(\psi)), \\ 2\beta_q = 2\beta_q(h) = \text{ord}_q \left(\frac{\mathfrak{f}(\psi) \mathfrak{f}(\psi^2)^2}{\mathfrak{f}(\psi \chi_h)} \right) + \text{ord}_q(\det 2h).$$

ここで $\mathfrak{f}(\chi)$ は Dirichlet 指標 χ の導手を表す.

4 p -stabilization

Eisenstein 級数を使って p 進 Eisenstein 級数が保型形式になることを示すには, p における Euler 因子が 1 であるような Eisenstein 級数を構成する必要がある. この節では, level p の Hecke 作用素 $U(p)$ を使って, $E_{k,\psi}^{(2)}$ の Fourier 係数の p での Euler 因子を除いたものを構成する.

$f \in M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ を Siegel 保型形式とし,

$$f(z) = \sum_{0 \leq h \in \text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(h, f) \mathbf{e}(hz),$$

を f の Fourier 展開とする. level p の Hecke 作用素 $U(p)$ を次で定義する.

$$(f | U(p))(z) = \sum_{0 \leq h \in \text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(ph, f) \mathbf{e}(hz).$$

定義より次が成立する.

$$f \in \begin{cases} M_k(\Gamma_0^{(g)}(pN), \psi) & p \nmid N, \\ M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi) & p \mid N. \end{cases}$$

また, $V(q), W(p)$ を次で定義する.

$$V(q) = \begin{cases} \frac{1 - \bar{\psi}(q)^2 q^{3-2k} U(q)}{1 - \bar{\psi}^2(q) q^{3-2k}} & q \neq 2, \\ \frac{U(q)^2 - \bar{\psi}(q)^2 q^{3-2k} U(q)^3}{1 - \bar{\psi}^2(q) q^{3-2k}} & q = 2, \end{cases}$$

$$W(p) = \frac{(U(p) - \psi(p)p^{k-1})(U(p) - \psi(p)p^{k-3})(U(p) - \psi^2(p)p^{2(k-3)})}{(1 - \psi(p)p^{k-1})(1 - \psi(p)p^{k-3})(1 - \psi^2(p)p^{2(k-3)})}.$$

定理 3.1 と $V(q), W(p)$ の定義より次の 2 つの命題が証明できる.

命題 4.1. ψ を mod N の原始指標とし, $0 \leq h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ を半整数, 半正定値対称行列とする. また, $k > 3$ を仮定する.

$$E'_{k,\psi} = E_{k,\psi}^{(2)} \mid \prod_{\substack{q|N \\ \psi_q^2 \neq 1}} V(q),$$

と置く. $E'_{k,\psi}$ の Fourier 係数 $a(h, E'_{k,\psi})$ について次が成立する.

(1) rank $h \leq 1$ のとき,

$$a(h, E'_{k,\psi}) = a(h, E_{k,\psi}^{(2)}).$$

(2) rank $h = 2$ のとき,

$$a(h, E'_{k,\psi}) = 2 \frac{L^{(N)}(2-k, \chi_h \psi)}{L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2)} \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q(h; \psi(q) q^{k-3}).$$

命題 4.2. N を正の整数とし, ψ を mod N の Dirichlet 指標とする. $q \mid N$ かつ $q \neq p$ であるような素数 q に対して, ψ_q は原始指標であるとし, $\text{ord}_p N > 1$ ならば ψ_p は原始指標であると仮定する.

$$G_{k,\psi}^{(2)} = \begin{cases} \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2) E'_{k,\psi} & \psi_p \text{ が原始指標のとき,} \\ \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2) E'_{k,\xi} \mid W(p) & \psi_p \text{ が mod } p \text{ の自明な指標のとき,} \end{cases}$$

と置く. ここで $\xi = \prod_{\substack{q|N \\ q \neq p}} \psi_q$ である. $0 \leq h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ とし, $k > 3$ であるとする. このとき, $G_{k,\psi}^{(2)}$ の Fourier 係数 $a(h, G_{k,\psi}^{(2)})$ について次が成立する.

(1) rank $h = 0$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2).$$

(2) rank $h = 1$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = L^{(N)}(3 - 2k, \psi^2) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q^{(1)}(\varepsilon(h); \psi(q)q^{k-2}).$$

ここで $F_q^{(1)}(m; T)$ は $1 + qT + \cdots + (qT)^{\text{ord}_q(m)}$ であり, $\varepsilon(h)$ は次で定義される.

$$\varepsilon(h) = \max \{m \in \mathbb{Z}_{\geq 0} \mid m^{-1}h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})\}.$$

(3) rank $h = 2$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = L^{(N)}(2 - k, \chi_h \psi) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q(h; \psi(q)q^{k-3}).$$

注意 4.3. ψ が $\text{mod } p$ の自明な指標のとき [Mi-Na] では Jacobi 形式の Hecke 作用素と Maass lift を使って $G_{k,\psi}^{(2)}$ が構成されている.

5 p 進 Siegel-Eisenstein 級数と degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な族

命題 4.2 と p 進 Dirichlet L 関数の性質より, Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な族が存在することや, Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限が Siegel 保型形式であることが証明できる.

まず, p 進 Dirichlet L 関数の性質の復習をする. N を正の整数とし, χ を $\text{mod } N$ の Dirichlet 指標とする. $N = N_0 p^r$ ($r \geq 0$, $(N_0, p) = 1$) とおく. χ は $\varprojlim_n (\mathbb{Z}/N_0 p^n \mathbb{Z})^\times = (\mathbb{Z}/\mathfrak{p}N_0 \mathbb{Z})^\times \times (1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p)$ の指標とみなせる. ここで \mathfrak{p} は

$$\mathfrak{p} = \begin{cases} p & p \neq 2, \\ 4 & p = 2, \end{cases} \quad (5.1)$$

である. χ を $\chi = \chi_1 \chi_2$ (χ_1, χ_2 はそれぞれ $(\mathbb{Z}/\mathfrak{p}N_0 \mathbb{Z})^\times, (1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p)$ の指標) と分解する. これらの記号の準備の下で次が成立する.

定理 5.1 (久保田, Leopoldt, 岩澤). χ を $\text{mod } N$ の Dirichlet 指標で $\chi(-1) = 1$ となるものとする. $1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p$ の位相的生成元 u を固定する. また ω で Teichmüller 指標を表す. $\Phi(\chi; T) \in \text{Frac}(\mathbb{Z}_p[\chi][[T]])$ で次の interpolation property をみたすものが一意的に存在する.

すべての位数が有限の指標 $\varepsilon : 1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p \rightarrow \mathbb{C}^\times$ と $k \in \mathbb{Z}_{\geq 1}$ に対し,

$$\Phi(\chi; \varepsilon(u)u^k - 1) = L^{(p)}(1 - k, \chi \varepsilon \omega^{-k}).$$

また

$$P(\chi; T) = \begin{cases} 1 & \chi_1 \neq 1, \\ 1 - \chi_2(u)u(1 + T)^{-1} & \chi_1 = 1. \end{cases}$$

とおくと, $\frac{1}{2}P(\chi; T)\Phi(\chi; T) \in \mathbb{Z}_p[\chi][[T]]$ が成立する.

上の定理と命題 4.2 より次が証明できる.

定理 5.2. N を p で割れる正の整数とし, ψ を $\text{mod } N$ の原始指標とする. $q \mid N$ かつ $q \neq p$ であるような素数 q に対して, ψ_q は原始指標であるとし, $\text{ord}_p N > 1$ ならば ψ_p は原始指標であると仮定する. 半整数半正定値

対称行列 $h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ に対し, 次の条件を満たす $\mathbf{a}(h, \psi; T) \in \text{Frac}(\mathbb{Z}_p[\psi][[T]])$ が存在する.
 すべての位数が有限の指標 $\varepsilon: 1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p \rightarrow \mathbb{C}^\times$ と $k \in \mathbb{Z}_{>3}$ に対し,

$$\mathbf{a}(h, \psi; \varepsilon(u)u^k - 1) = a(h, G_{k, \varepsilon\psi\omega^{-k}}^{(2)}),$$

$P(\chi; T)$ を前の定理のものとする. $Q(\psi, T)$ を次で定める.

$$Q(\psi; T) = P(\psi; T)P(\psi^2\omega^{-2}; u^{-2}(1+T)^2 - 1)P'(\psi; u^{-1}(1+T) - 1),$$

ここで $P'(\psi; T)$ は

$$P'(\psi; T) = \begin{cases} 1 & \psi_1^2 \neq \omega^2, \\ 1 - \psi_2(u)u(1+T)^{-1} & \psi_1^2 = \omega^2 \text{かつ } p \neq 2, \\ (1 - \psi_2(u)u(1+T)^{-1})(1 + \psi_2(u)u(1+T)^{-1}) & \psi_1^2 = \omega^2 \text{かつ } p = 2. \end{cases}$$

である. このとき $Q(\psi; T)\mathbf{a}(h, \psi; T) \in \mathbb{Z}_p[\psi][[T]]$ が成立する.

Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限については次が成立する.

定理 5.3. N を p で割れない正の整数とし, ψ を mod N の原始指標とする. $\mathfrak{X}, \mathfrak{X}_\psi$ を

$$\begin{aligned} \mathfrak{X} &= \mathbb{Z}/(\varphi(\mathfrak{p})) \times \mathbb{Z}_p, \\ \mathfrak{X}_\psi &= \{(a, s) \in \mathfrak{X} \mid (-1)^a = \psi(-1)\}, \end{aligned}$$

とおく. ここで \mathfrak{p} は (5.1) のものであり, φ は Euler の関数である. $\mathbb{Z} \ni m \rightarrow (m \bmod \varphi(\mathfrak{p}), m) \in \mathfrak{X}$ によって $\mathbb{Z} \subset \mathfrak{X}$ とみなす. $(a, k) \in \mathfrak{X}_\psi$ とし, $k \in \mathbb{Z}_{>3}$ を仮定する. $l_m > 3$, $\lim_{m \rightarrow \infty} l_m = +\infty \in \mathbb{R}$ かつ $\lim_{m \rightarrow \infty} l_m = (a, k) \in \mathfrak{X}_\psi$ となる任意の列 $\{l_m\}_m \subset \mathfrak{X}_\psi$ について $m \rightarrow \infty$ のとき $a(h, G_{l_m, \psi}^{(2)})$ は h に一様に $a(h, G_{k, \psi\omega^{a-k}}^{(2)})$ に p 進的に収束する. ただし, $a = k$ のとき, $\psi\omega^0$ は ψ から誘導される mod Np の Dirichlet 指標を表す. つまり, $G_{l_m, \psi}^{(2)}$ は $m \rightarrow \infty$ のとき, level Np , weight k , 指標 $\psi\omega^{a-k}$, degree 2 の Siegel 保型形式に p 進的に収束する.

注意 5.4. p を奇素数とし, $N = 1$, $a = k$ または $a = k + (p-1)/2$ とする. 定理の最後の主張は, $k \geq 2$ に対し証明されている. ([Kat-Na], [Mi-Na])

参考文献

- [Gu] Kenichi Gunji, On the Siegel Eisenstein series of degree two for low weights, (preprint).
- [Hi] Haruzo Hida, *Elementary Theory of L-functions and Eisenstein Series*, London Mathematical Society Student Texts 26, Cambridge University Press, 1993.
- [Kau] Günter Kaufhold, Dirichletsche Reihe mit Funktionalgleichung in der Theorie der Modulfunktionen 2. Grades, Vol.137 (1959), pp.454-476.
- [Kat] Hidenori Katsurada, An explicit formula for Siegel series, American Journal of Mathematics, Vol.121 (1999), pp.415-452.
- [Kat-Na] H.Katsurada and S.Nagaoka, On some p-adic properties of Siegel-Eisenstein series, J.Number Theory, Vol.104 (2004), pp.100-117.
- [Mi1] Yoshinori Mizuno, An explicit arithmetic formula for the Fourier coefficients of Siegel-Einstein series of degree two and square-free odd levels, Mathematische Zeitschrift, Vol.263 (2009), No.4, pp.837-860.

- [Mi2] Yoshinori Mizuno, On p -adic Siegel-Eisenstein series of weight k , *Acta Arith*, Vol.131 (2008), pp.193-199.
- [Mi-Na] Yoshinori Mizuno and Shoyu Nagaoka, Some congruences for Saito-Kurokawa lifts, *Abhandlungen aus dem Mathematischen Seminar der Universität Hamburg*, 2009.
- [Se] J.-P. Serre, Formes modulaires et fonctions zêta p -adiques, *Modular Functions of One Variable III*, Lecture Notes in Mathematics 350.
- [Sh1] Goro Shimura, On Eisenstein series, *Duke Mathematical Journal*, Vol.50 (1983), pp.417-476.
- [Sh2] Goro Shimura, *Euler Products and Eisenstein Series*, Cbms Regional Conference Series in Mathematics Number 93, American Mathematical Society, 1997.
- [Sh3] Goro Shimura, Confluent hypergeometric functions on tube domains, *Mathematische Annalen*, Vol.260 (1982),pp.269-302.